

# 点滴治療を 受ける方へ

## 患者の皆さまと病院職員の パートナーシップ

当院では患者の皆さまと病院職員が協力し合い、より安全な治療が受けられるよう取り組んでおります。

このリーフレットは、特に点滴治療中に起きやすい血管外漏出(点滴もれ)の注意点や皆さまに守って頂きたいことをまとめました。ご協力をお願いいたします。

北里大学病院

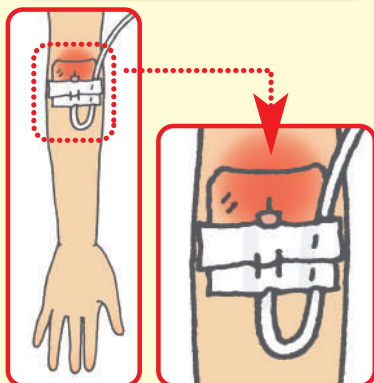
点滴による治療を受ける上で、  
注意が必要なことに「けっかんがいろうしゅつ血管外漏出」があります。

けっかんがいろうしゅつ  
**血管外漏出とは**

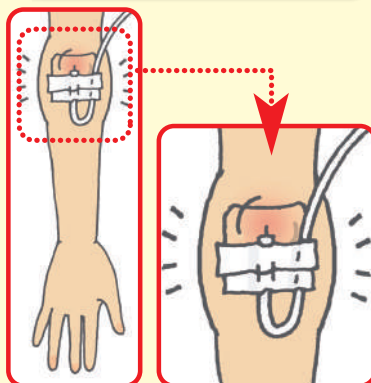
注射液が血管の外に漏れて、血管の周囲の皮下組織や皮膚に障害を与えることです。障害の程度はさまざまで、軽い炎症から壊死（細胞の一部が壊れること）にまで至ることがあります。

血管外漏出が起こると、その直後あるいは少し時間が経ってから、最初に次のような皮膚症状が出現します。

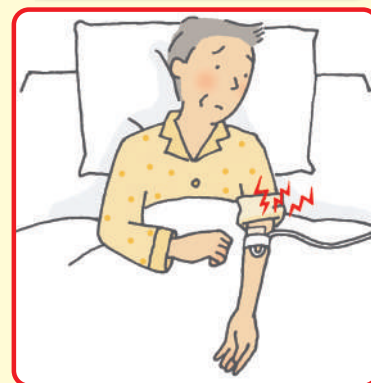
**発赤**



**腫れ**



**痛み**



上記のような症状が悪化し、数時間～数日後に、水疱（すいほう）→潰瘍（かいよう）→壊死（えし）へと進行していきます。



点滴中に以下のような症状が出現した場合には、  
すぐにスタッフにお知らせください。

●点滴の針が入っている所、あるいは周囲の

**発赤**

（皮膚が赤くなる）

**腫れ**

（違和感）

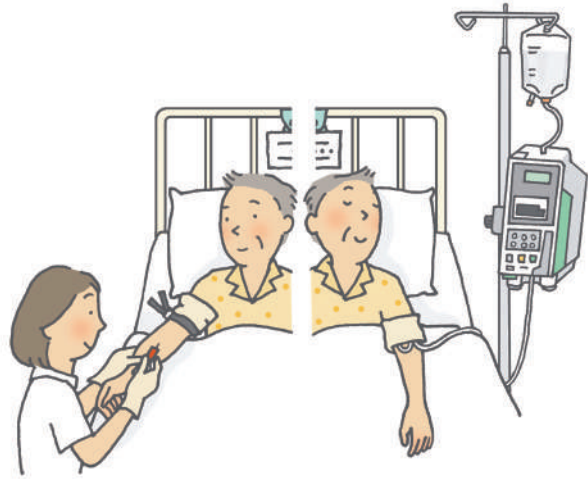
**痛み**

（ピリピリした感じ）

## 抗がん剤治療を受ける方の注意点

### 点滴の部位

採血部位(場所)と同じ腕から点滴を行うと、そこから薬剤が漏れる危険性があります。通常は採血した腕と反対の腕から点滴を行います。場合によっては採血した腕から治療を行うこともあります。



### 点滴中のトイレ・食事

点滴の針先が動くことで、血管外漏出を起こす場合があります。治療中は、点滴部位をできるだけ動かさないように気をつけましょう。→トイレは、点滴治療前に済ませておいてください。

## 一緒に観察していきましょう

### 寝ている時でも…

お休み中でも、点滴が漏れていないか観察させていただきますので、ご了承ください。



### 血管が弱くなることも…

糖尿病・高血圧などの既往のある方、繰り返し点滴治療を行っている方、高齢の方は、特に血管が弱くなっている可能性があります。そのため十分な観察が必要になります。

## 点滴治療終了後の注意点

### しっかり押さえて!

針を抜いた後は、指でしっかり押さえましょう。絶対にもまないでください。

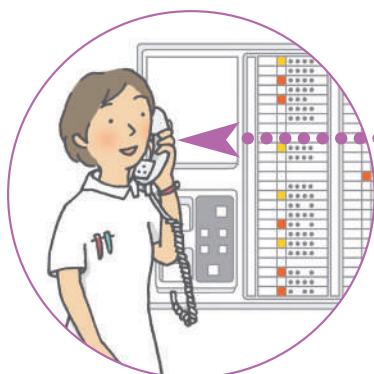
### 止血は5分間!

針を抜いた後は、5分間以上押さえましょう。押さえ方が不十分だと内出血を起し腫れることがあります。

### 針を抜いたその後も注意!

点滴注射が終了し針を抜いて止血後も、針が入っていた部分や周囲に赤みや腫れ、痛みが出現することがありますので注意しましょう。痛みが無くても、2-3日後に症状が現れる場合があります。

**異常を感じたり、ご不明な点などがありましたら、  
スタッフに遠慮なくおたずねください。**



退院後や外来治療後も観察いただき、異常を感じたら、  
すぐに外来にお電話ください。



**連絡先 042-778-8111(代)**



相談される方の患者番号が分かるもの  
(診察券・予約票など)をご用意ください